

モンゴルで地質勲章受賞

1998年10月, モンゴル政府よりモンゴル国の地質学者にとって最高の栄誉となる地質勲章が, JICAのプロジェクトタイプ技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所」のメンバーに授与された。叙勲の栄誉を受けたのは長年にわたり専門家として, モンゴルで技術協力を携わってきた地質調査所中嶋輝允, 高橋裕平, 渡部芳夫, 同和鉱業(株)佐藤庸一の各氏と, モンゴル地質調査所のイチノロフさん(以上最高地質勲章), JICAプロジェクトのチームリーダー伊藤司郎氏, コーディネータの樋口三岐子さん, 同和鉱業(株)からの派遣専門家日時誠司氏(以上地質功労者賞)の7名で, 受賞式は, モンゴルで「ジオロジストの日」にあたる10月16日に, モンゴル地質調査所の所管官庁である農牧業産業省において行われ, アルタンホヤック大臣より勲章および表彰状が授与された(写真1)。なお, 地質勲章を外国人が受賞した例は, 解放経済体制に移行してからは初めてである。

この受賞の背景となっているJICAプロジェクトタイプ技術協力「モンゴル地質鉱物資源研究所」は1994年に開始され, モデルフィールドであるバヤンホンゴル地域での野外調査および地質図・鉱物資源図の作成, 研究所内での化学分析および地質鉱物分野での研究を通して技術協力が行われ, 1999年3月に終了の予定となっている。このプロジェクトには5年間で長期9名, 短期30名の専門家が派遣され, 地質, 岩石, 鉱床, 分析, 薄片等の分野で技術指導が行われた。今回の受賞は, 最終年度に現地でも活躍されていた7名が, これらの派遣専門家を代表して受賞の栄誉に浴したものと受け取るべきであろう。

このプロジェクトでは, 実施期間中にモンゴル政府の機構改革が数度にわたり行われ, 相手方機関であるモンゴル地質調査所の組織体制もその度ごとに見直されたため, プロジェクト運営上の苦勞が



写真1 アルタンホヤック農牧業産業大臣(マイクの右側)より最高地質勲章の賞状を受ける, JICA派遣専門家中嶋輝允氏(地質調査所資源エネルギー地質部)。

多かったが, 鉱業を主要産業とするモンゴル側は, このプロジェクトに対して常に高い期待感をもって臨んでいた。モンゴルでは現在, 外貨の約6割を鉱産物で稼いでおり, 鉱物資源の探査, 開発および鉱業分野への外国資本の投資促進は, モンゴル政府の最重要課題である。鉱業関連の法令の整備等も進み, 1997年には新しい鉱業法の施行に伴い, 地質と鉱物資源探査を担当する鉱物資源実施庁(Mineral Resources Authority of Mongolia)が設立された。これに伴いJICAプロジェクトの相手方機関は, この実施庁に所属する地質調査所(地質局の名称で呼ばれることもある)となっている。このモンゴル地質調査所の主要業務は, 広域的な地質, 鉱物資源情報の整備およびそれらの顧客への提供にある。モンゴル地質調査所は, 諸外国の企業を含め顧客のニーズに対して高品質のデータの提供を目指しており, そのための調査研究レベルの向上をはかる努力を続けている。JICAプロジェ

キーワード: モンゴル, 地質勲章, JICA, モンゴル地質調査所

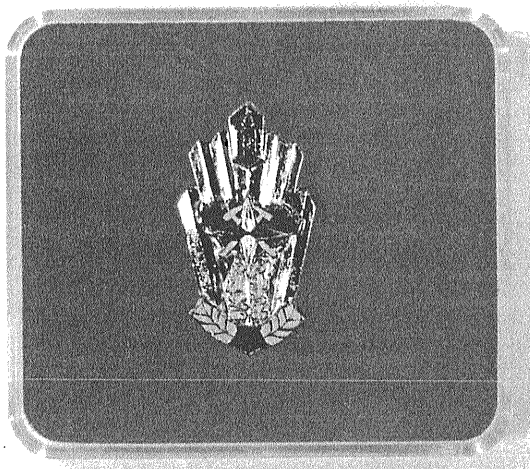


写真2 モンゴル最高地質勲章。

クトは人づくりの面で、このような背景にもとづく技術課題の要請に応えるかたちで事業が進められてきており、それに対してのモンゴル側の評価が今回の受賞に表れたものと受け取ってよいであろう。

この5年間に今回叙勲のあった専門家をはじめとして、日本から派遣された専門家の技術指導で改善がはかられた主な内容を紹介すると、まず地質図の作成では微化石を用いた層序の確立、プレートテクトニクスによる新しい構造単元の導入等により、図上に表現される内容が一新された。とくに微化石の鑑定には供与した走査型電子顕微鏡が威力を発揮し、今回カウンターパートで叙勲されたイチノロフさんは、この分野での今後の活躍が大きく期待されている。また、技術移転の一つとして数値地質図作成に必要なコンピュータ技術が導入されたことにより、取得データを様々な形に加工することが可能となるとともに、経済的理由等でこれまで困難であったカラープリントの地質図の発行も可能になった。一方、鉱物資源の分野では、社会主義時代とは異なる経済的尺度での資源評価が行われるようになり、鉱床の見方は大きく転換されてきているが、このプロジェクトにおいては技術的な面から野外及び室内での実作業を通じて既存鉱床の見直しが行われた。鉱石の分析に関しては、原子吸光、ICP等の機器が供与されたことにより、精度の向上がはかれるとともに、作業の効率化が進んできている。また、鉱床の母体となる花崗岩の調査では、

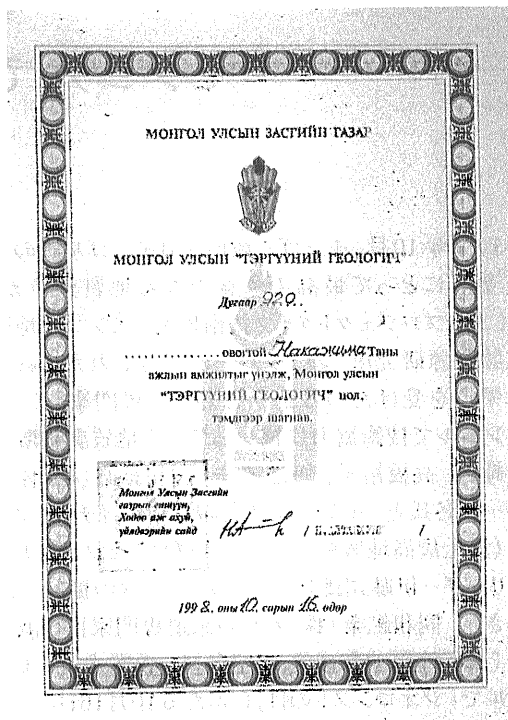


写真2 モンゴル最高地質勲章の賞状。

鉱床探査の指針を与える花崗岩系列の考え方が導入されている。さらに地質図の数値化と併せて、鉱物資源のデータベース化を行うための基礎的なコンピュータ技術も移転されている。

10年ほど前までは、モンゴルは近くて遠い国であった。それが解放経済体制に移行してから日本との関係は急速に緊密化が進んできている。春から秋にかけては関西国際空港からの直行便がウランバートルまで毎日飛んでおり、夏季には多くの観光客が日本の4倍の国土をもつ草原の国モンゴルを訪れている。主な産業が牧畜業と鉱業であるこの国では、鉱業分野への期待は高く、国としての長期計画を掲げて、産業の育成に取り組んでいる。地質の分野では、この5年間の技術協力プロジェクトで得られた両国の信頼関係をベースに、お互いの努力により今後も良好な協力関係が続けられていくものと思われる。(国際協力室 笹田政克)

SASADA Masakatsu (1999) : The Japanese Geologists Awarded the Leading Geologist Medal from Mongolia.

<受付：1999年1月18日>